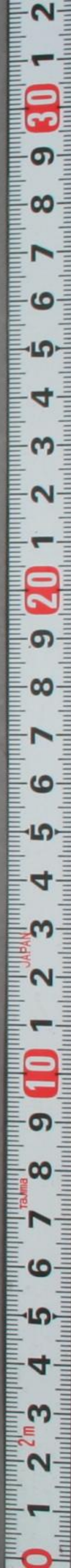


紀伊國名所圖

三之卷下  
海士郡

服部文庫  
117  
1550  
5



紀伊國名所圖會卷之三下

|                                                                        |                                                                                   |                                                          |                                                                                                             |                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>住吉神社<br/>和田千軒<br/>極樂寺<br/>南法神社<br/>儀乃浦<br/>十輪寺<br/>伽陀寺<br/>徳留入幡</p> | <p>住吉神社<br/>八幡宮法<br/>慶善光寺<br/>田中神社<br/>萬福寺<br/>二星之濱<br/>古屋の泊<br/>西福寺<br/>弁財天法</p> | <p>崇谷觀音<br/>宇佐八幡宮<br/>姥櫻<br/>諏訪神社<br/>國主神社<br/>貴志甚志猿</p> | <p>提舉德持寺<br/>崇谷の松<br/>宗圓の松<br/>大蔵法<br/>稻荷神社<br/>親通寺<br/>親月楼跡<br/>八幡神社<br/>春日神社<br/>揚杖の舟<br/>常行寺<br/>迎之坊</p> | <p>美宮八幡宮<br/>徳藏院<br/>北島の涉<br/>松江<br/>春日神社<br/>宗光院<br/>名物系切餅<br/>光福寺<br/>潮入橋<br/>三圍山<br/>春日神社</p> |
|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|





光明山善導寺

西村本寺あり善導上人西山飛物持寺に屬し

奉尊阿弥陀如来

座像二尺寸

服檀弥陀三尊御影

長き尺六寸。上人の自他ありて杖をたぐりて履を脱ぎて坐す。其の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。此の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

親鸞上人提仁の像

長き尺六寸。上人の自他ありて杖をたぐりて履を脱ぎて坐す。其の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

鎮守天満文

當山の皇二百代後園融天皇の御代永和四年妙法光融上人の昇基にて尚昔寺門廣莫の大仏場あり。此の始

祖上人の俗姓とあり。上人の自他ありて杖をたぐりて履を脱ぎて坐す。其の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

の伝承とあり。英雄の士あり。此の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

を述べた子もあれ。夫婦相とあり。此の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

親音大士とあり。持念とあり。此の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

寺持とあり。此の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

寺持とあり。此の御影に城手にてあり。此の御影の中奥定雄上人の御影あり。

称念寺

石依陀寺

光源寺

昆沙門堂

御所の井

八王子橋

八王子山

新田法店

蓮華井

親王堂

新老堂

石山寺

形見浦

形見山

和布製圖

古城路

中言神社

竹後堂

神嶋

古城中

友が池

地の御小名

神嶋

五ヶ所額

八雲寺

深山

小所七度濱

龍浦

道祖神

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

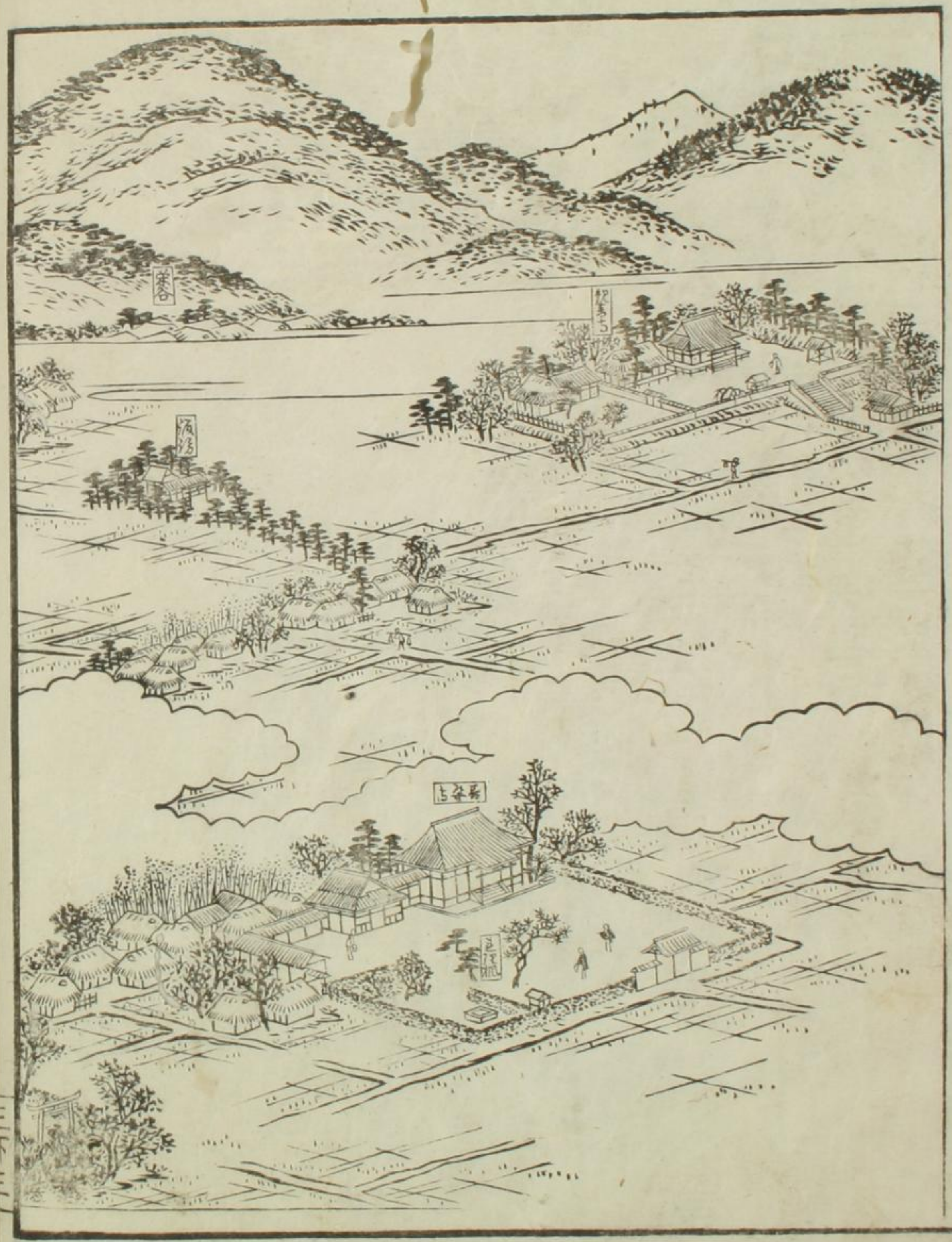
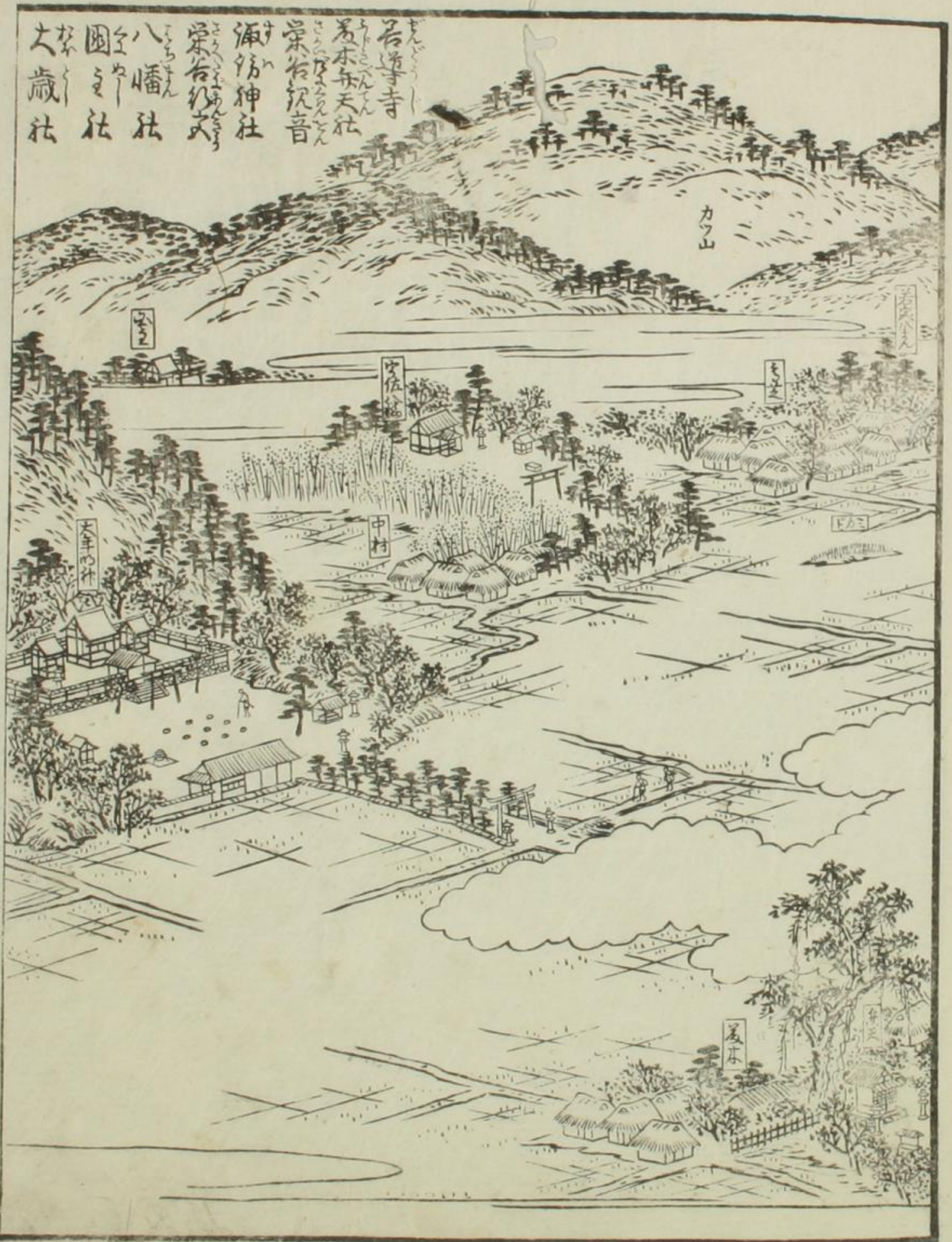
能浦

圓光大師教化の圖

報恩講寺

能浦





あるひけるう終ふ長元年二月廿九日法晴八十一  
生主とて遂に其後熱持の用と明秀光雪上人も  
了び湯とめりてさうと入るも終る起るはあきと  
漸廢頽にわび終る天宮の兵火も古に什室より  
とて燒失し今燒に存するものもあきの後には  
たげ孫あめりてさうと入るも終る起るはあきと

○什室の甚道大師神自筆のる教  
伊弉神社 推取村あり なる不の神二座 蛭子神一村の産神にて例

あま毎歳六月晦日

受陽山知豆院總持寺

本尊阿弥陀如来

推取村あり 淨土祖師の檀越七ヶ寺の共  
村に八十餘ヶ寺ありて村を合して二百八十餘ヶあり  
座像長六尺佛二淨而の作りて白毫の佛念  
利に敷尼是より手入ふたけ七尺立像の阿弥  
陀如来を尊んで奉さるる人の他さるるはあきと  
と終る起るはあきと  
かたはして壇上は彌羅のなる八箇条のなるあきと  
其終る起るはあきと  
其終る起るはあきと

其ときさるる人皇一百二代後花園院帝寛徳  
二年春建立ありて開祖を明秀光雪上人  
たりたり上人の俗姓なつめりて村上天皇予七  
の皇子具平親王六代り高孫從二位末  
葉赤也攝守御村が息位攝守執事資が二  
の子たりて御村のさるる攝守に依りて  
莊ありて御村の風小御者奉りてその難  
一圓心と号れりては上人とてあきと  
ぬく終る起るはあきと  
心身一の師のまゝあきと念四院の法を  
あきと奉りて終る起るはあきと  
用りてあきと終る起るはあきと

梶取 總持寺

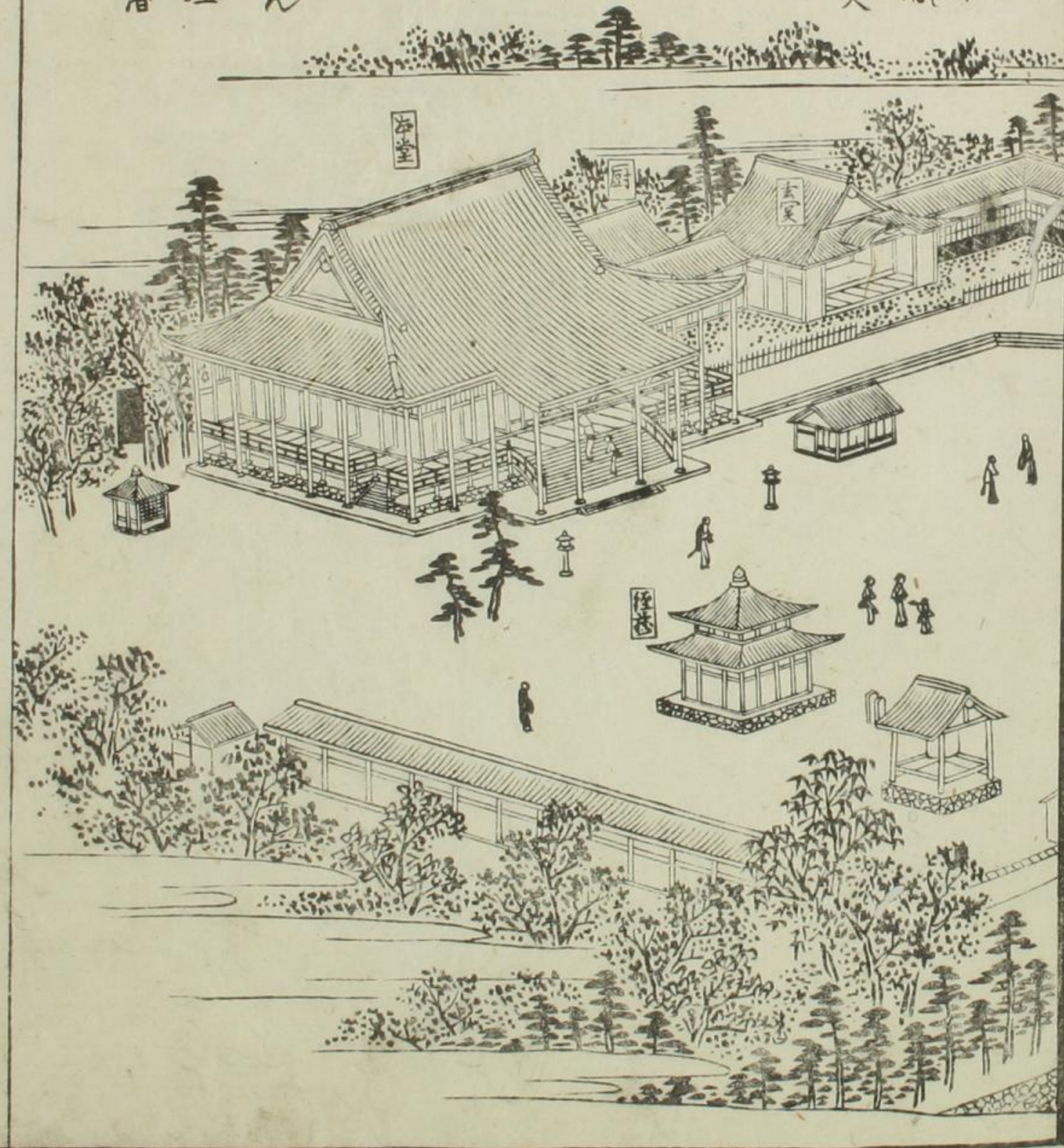
初春遊總持寺  
 祇林雨散後  
 靄暈行人黃  
 雀啣花度綠  
 揚帶露新苔  
 深金跡沒樹  
 鳥聲頻幾  
 歲投替客底  
 憐此地春  
 紀藩  
 坂井清洲



さきかへ娘  
 きんごの母や  
 御ら詣  
 之英

おしりか  
 女ら娘も  
 豊調  
 哉

後の世心  
 此の世  
 きん  
 御ら詣  
 鐘  
 魚潜



中らふとちうくく諸くもあまぎやうのなううし出  
園有田郡よりわたく十八箇の梵刹をさうさう  
あまうく福くぬかる菩提寺にきこちゆりしたけ  
ゆく山境にこそたまたまの曳田なまうと海と  
さうさうゆりえんてなまうとちうさうのやう  
後世ふねなまうとばさうはなまうとびなまうと  
しとありしうさうとくくねりなまうとふ明言を  
あまうとくくあまうとくくねりなまうとくく  
薬糖都くくくくくく後人さうはなまうとくく  
杖さうさうさうさう上人の法徳をのくもたなまうと  
實にも枯さう樹さうとくくくくをわく草創ありし  
物さうさうさうさうさうさうさう一足九向ありし  
法徳さうさうさうさうの親象さうさうの麟鶴く

小雲集にこそ上人乃大檀林なりや  
正親所院乃兩帝志なりふ勅せん乃論旨なり  
官平ふ命ぞくくくくくく代く  
烟主乃昔様とくくくくくく一実徳乃実基  
よりさうさうさうさうさうさう佛さうさうさう  
浴く宗凡乃光輝見くにあたりあり  
○什寶の畫像法陀如来  
百くゆりくくくくくくくくくくくくくくくく  
あまうとくくくくくくくくくくくくくくくく  
○元祖法皇上人真身乃舍利三顆の元祖大師也  
形く御影のそ乃外寺寶投さうとありしと後  
あまうと



九頭神社  
研棒根台



三下七

宗園の松 貴志村より山の上あり 勝園のよた 依野家の老上田宗園も人  
 世にもきこえ 英雄にしてかろく凡流の道おも暗くさり  
 とくこころ首楳のらとふ手はく一株の松と極くふ其  
 真操公賞マ〜き 送愛の樹ありとと

與諸子遊榮谷分題賦得冬嶺孤松 詩意咏宗園松宗園松在葛嶺西梅村上

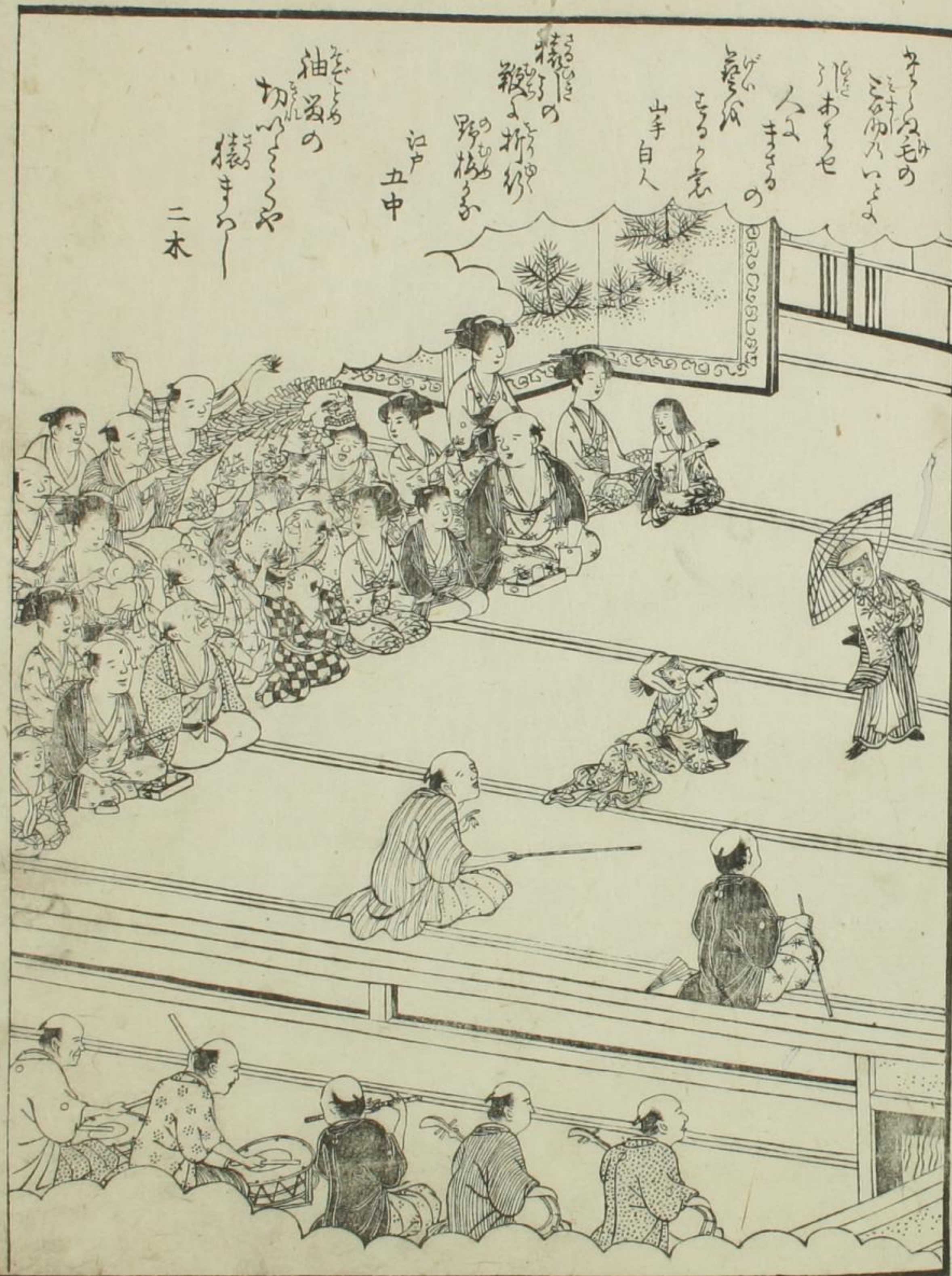
祇南海

矯く嶺頭樹亭く天外條根え在僻境名獨自前朝。  
 偃蓋而常抱負操霜不凋英雄亦陳跡萬古望岩堯。  
 北園山碧岩院 村あり 本寺親世音 作不詳  
 嶺の吹上禪林寺央とわ尚の用基にしてわ岩彼所を退  
 院のわら家ふさくに修する是則終焉の地也○尚寺に矯  
 様ろ大樹數株ありて生生のはいつとと吐觀と遠近の  
 諸人思ふ冬日に樹下ふま〜ゆるとちる実園園の名はあり

夾山

清入道本力  
蕭鳴艸三本邦ノ  
櫻ヲ詠スル詩ニ  
東來初見此花奇  
無限春叢讓白眉  
的皚瓊珠三百斛  
玲玉樹萬千枝何妨  
穠李先春艷不與寒  
梅遜雪枝若使瓊管  
裡種清光多似桂園時







岸村行宮

紀伊國守小野朝臣小賢從此而還詔賜絕三千疋綿二百疋云云  
岸村行宮同甲申到和泉國日根郡深日行宮于時西方暗暝異常風雨  
紀伊國守小野朝臣小賢從此而還詔賜絕三千疋綿二百疋云云  
岸村行宮同甲申到和泉國日根郡深日行宮于時西方暗暝異常風雨

猿蓑山觀音寺

猿引書志其其情

猿蓑山觀音寺 猿蓑山あり猿蓑山あり猿蓑山あり  
猿引書志其其情 猿引書志其其情 猿引書志其其情  
于御前為希有事之旨及御沙汰教隆云是匪直之事歟云々

本寺 潘社

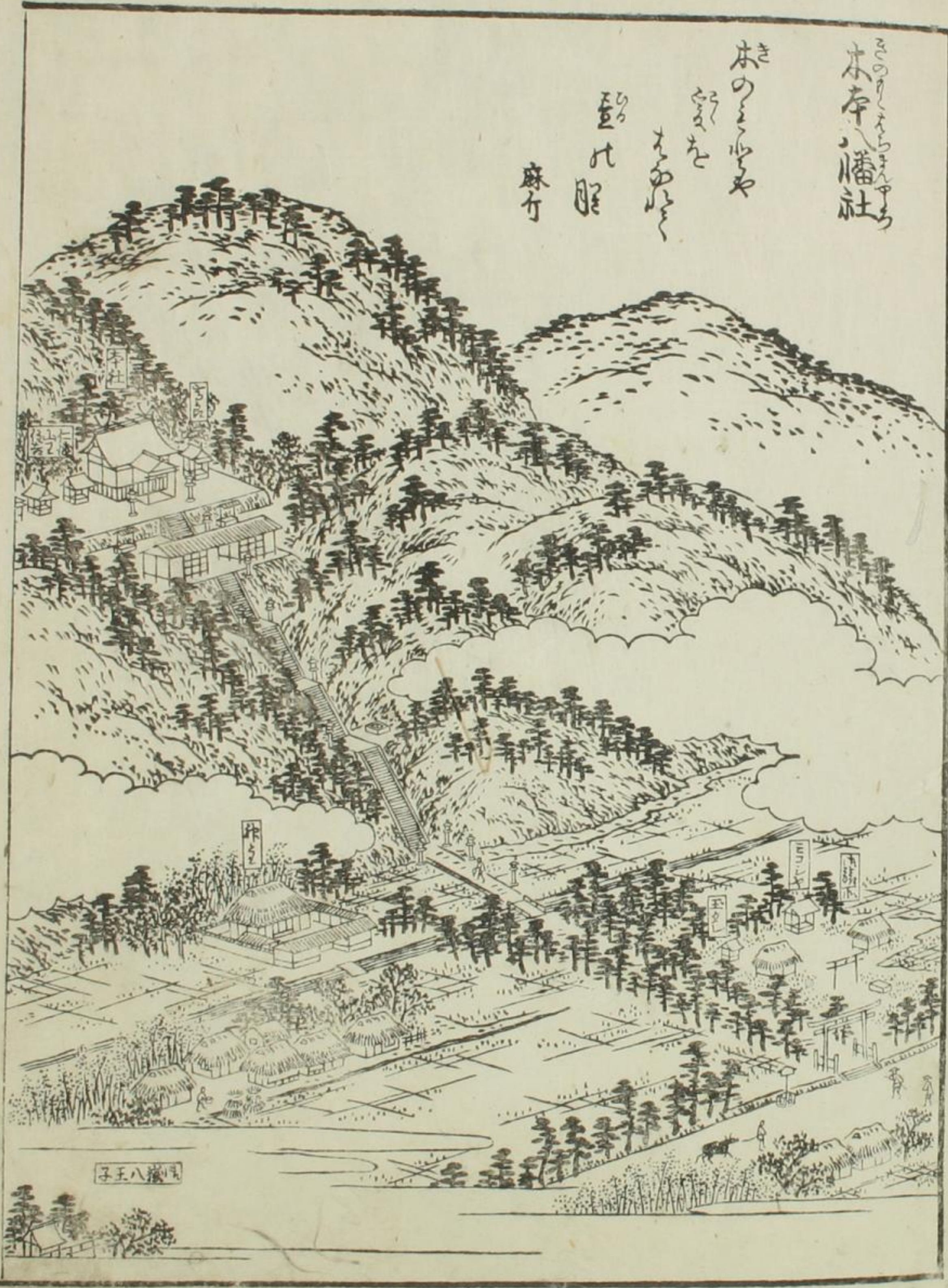
木のこしら

まのこしら

まのこしら

まのこしら

麻竹













紀の海を春ののどふとくけさみとに沖津ちりぬ  
松露 鳥貝  
名産沙利貝  
鱸  
鳥貝  
松露

鳴啼山寺

本時 侵雨摘石枕 眠鳥 枯槁子 不学 灌漑田  
和田十軒  
松露 鳥貝

慶善光寺

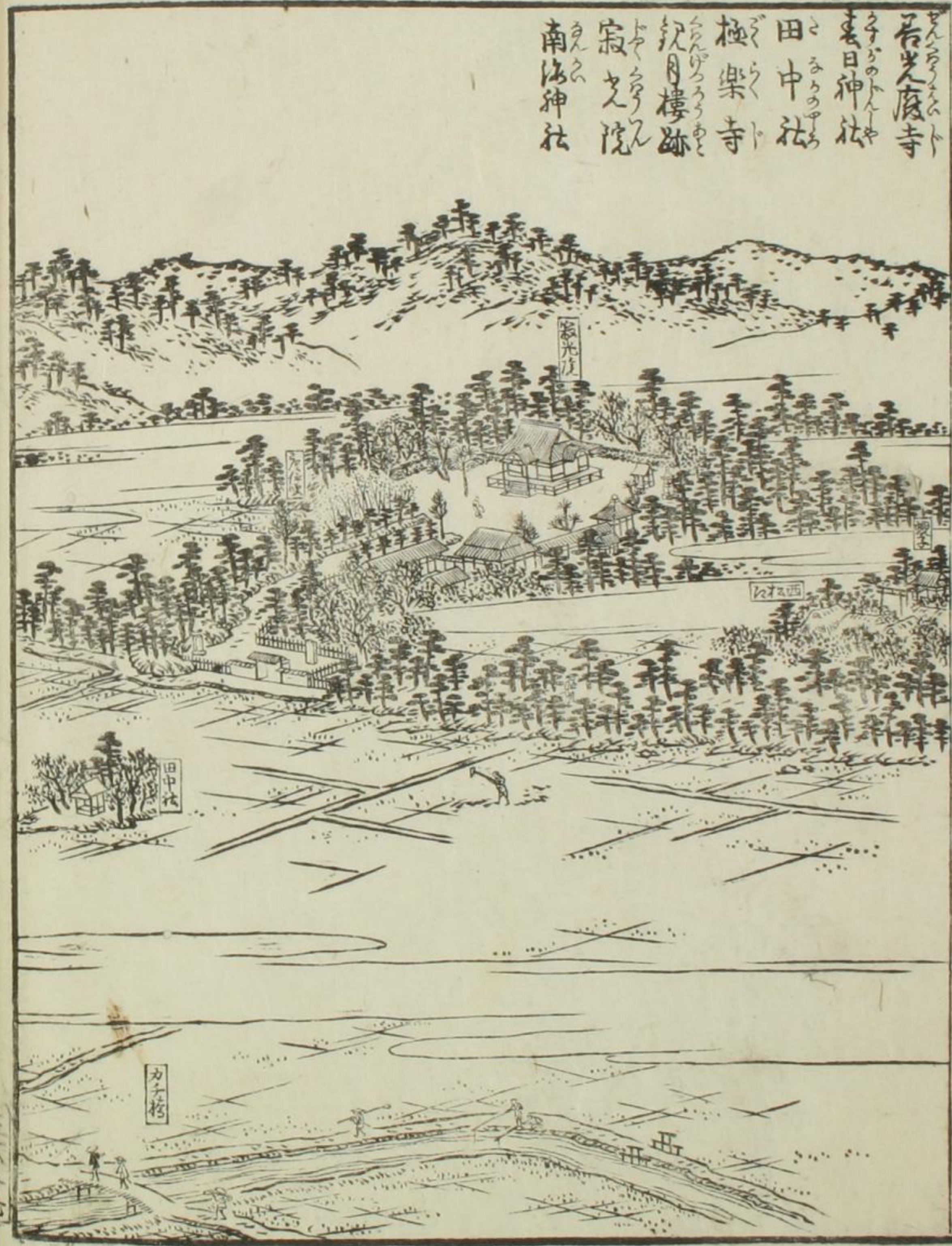
揚柳山觀通寺  
本寺を至親音  
寺はるるりーに中右

春日大明神

て修至五年六月朔日  
松江三村の産神は

慈恵山極樂寺

本寺乃法陀が本







糸切餅屋

くろくも

まき

ひも

志友

賞

糸切餅

の

志友

糸切餅

る

海神手纏持在玉故石浦廻濶為鴨

日

磯之浦爾來依白浪夏下過不勝者雄爾絶多倍

二月廿六日

海神浦と原今城真人

日

磯之浦はひさしむ心を

日

たのくと磯の浦波

日

あまの日の沖津松凡の

日

たのくと磯のうくとれ

日

磯の浦はひさしむ心を

日

たのくと磯の浦波

日

あまの日の沖津松凡の

日

たのくと磯のうくとれ

日

磯の浦はひさしむ心を

日

たのくと磯の浦波

持本人啓

名

夏白丸大臣

及余俊公親

松信公親

松徳門後

松二位公親

俊頼朝臣

今人

松

松

松

奉服八幡宮  
 二里ケ谷  
 八幡宮  
 道に非人由良  
 雄生産之石  
 碑あり

江南一夜競  
 紛華滄海秋  
 高雲不遮羅  
 綺能留明月  
 色清光偏在  
 莫愁家  
 縣周南



蒼茫海天迥  
 窮目浩烟波  
 朝宗江漢水  
 不作一滴多

津亭



春日大明神

日野村にありけり

光福寺

日野村にありけり

十輪寺

日野村にありけり

転る地藏菩薩

阿伽井

日野村にありけり

古屋の泊

日野村にありけり

風推集

山家集

洞のとうめのおの板びじりりる月そ袖にくまきる

傍心遍昭

錫杖の井

日野村にありけり

入橋

日野村にありけり

轉法輪山伽陀寺

日野村にありけり

金剛童子社

花四の井

支處の神變大菩薩

の因巻はて

天皇十代醍醐天皇の勅願によりて七堂伽藍を中創建

ましくけりて尊い其場あり住右の大門の構(堂塔の莊嚴

鐘樓井栴建あり僧坊費をさうなを魏くはさうりて哀

むごたふ天の兵火よ鳥有くあまるとをさうりて飛かこも

市代のはれ願下して毎年二月廿二日の終演の行考法五

より集り来りて女ヶ島とてめ當境にある本のはれのまう

なく修ばし宝祚延長天下安全の護摩法儀ひねをす

さへ悔るまかへて聖護院宮二宮院門を南に修ば

の初りるあだ道院を中

けりちてあめの旧例にて是道院とて昔の宿とする

所ひあり

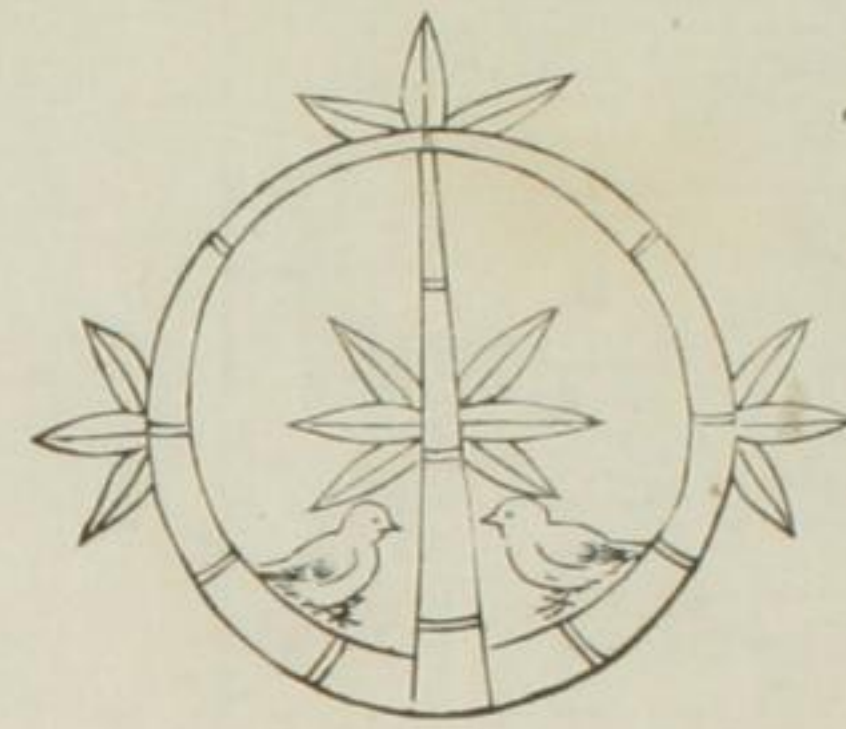
什寶神變大菩薩中製條丸平文

女ヶ嶋深蛇神王の丸

行者は母公形

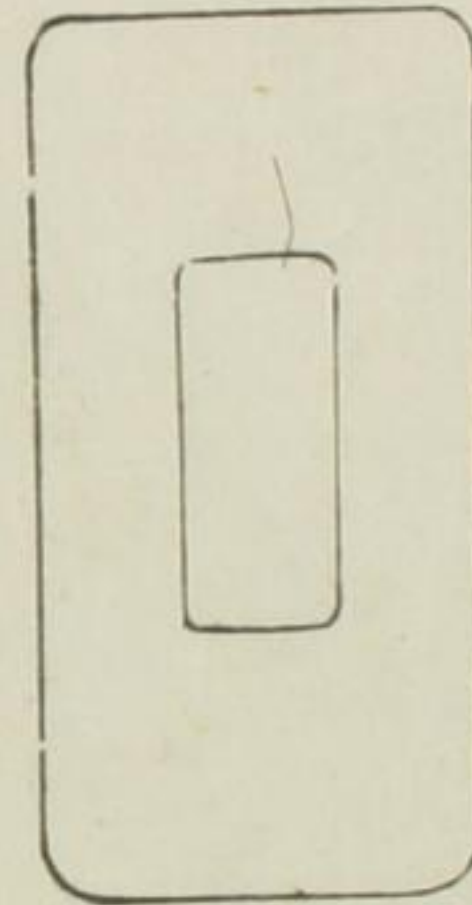


錫杖井  
加陀寺  
西御寺  
常約寺



篠丸印文

貝の御鑑  
小圓丸  
○月外影の硯  
日上



外影の硯

古鏡如明月  
幾人照到今  
不見古人面  
唯見古人心  
玉山秋儀



形見御鑑







鳩留八幡宮

日高の八幡宮なり

辨財天社

日高の八幡宮の傍にあり

尊圓山三宿谷経塚

日高の八幡宮の傍にあり

入江宿

日高の八幡宮の傍にあり

五福寺

日高の八幡宮の傍にあり

佛立常行寺

日高の八幡宮の傍にあり

奉る阿弥陀佛

日高の八幡宮の傍にあり

日高の八幡宮の傍にあり

迎之坊

日高の八幡宮の傍にあり

形見浦

日高の八幡宮の傍にあり

日高の八幡宮の傍にあり









社傳より尚社山彦名神よりなる神皇靈そののけふに  
天竺傲少小ま一由とるる心性の懐濁たること大海乃容水  
より亦るるたごころにたましくける宮み大己貴命と力を勢せ  
心成りたるに但し草原乃中津御石造り思ひあはるに  
圃を造りて是と平け其をばとて五穀と樹と一先  
手本に嘗て具材毒とて療病乃方とらるる更なる  
獸昆虫の虫を捕りてめに禁座の法を傳へるに遂にけ  
法造りてて跡をたまたました  
以上百葉記すは神代社  
啓事木のせと小異あり 志り  
るに神代の事伝へる皇十五代より神功皇后自親二韓  
を征し凱旋ましくける不熱王の謀及にたつて皇太子を  
武内宿禰に託し本乃氷門よりまき日高の地よりたつて  
たまらんと官益及み神代に向ふたれども鹿麋頻りに  
と起し陽候敷く浪を揚げ漂蕩して忽ち海流失に投て

進むるに海をさへる皇后執る艦をたまたまなすに天竺  
地獄と作るけりとのたつらん方を尋らるるや中より  
とつて海中に投しあはる流をさるるまき進まぬあつた  
いし安くと漕はまき遂にたつる海流なり  
其のたつる海流と  
たつる海流と 皇后別をよとらるるをなすたつるの神祖  
あり是必前乃危難免とてあはる神をたつてまきと  
あつた別をよとらるるをなすたつるの神祖  
眞助ありとて海流く感をもあはるるに神林醫  
業の祖神にまはるる皇后乃妊娠の法をたつて  
らたまはるるに瘴海乃毒はまき神林の後遂に  
赤白乃帯下にてはるるをたつるをたつるおちれ  
とて親帯帛とてまき瓜とてめけり願ふあつた靈驗  
地帯の帯に急とらるるにたつる初親に憑て神託ありと



則其ごとく一にはほい業をまつるもみ入に神不降立す  
手金もせたまふりておのゝ皇后神悦喜をさうだやうて  
齋園よてぬねたるもみ入の様々の宝奉納ましくて遂に  
のそくく皇太子に日まふ金一もい入人忠然玉珠して皇  
流恙もく巻まの神代は後日くく神威を伴て宗  
致あもみいけり其のち十七代の帝仁徳天皇降臨るに社  
楯たうたまひに神代ありて新殿に遷しなり皇后の神  
二月二日の日下しを神代より新殿に遷しなり皇后の神  
霊とりて合名なり あるはまの神といはれしと合名 其餘二ねの  
神神といはれしを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
て加ち兼治大明神といはれしを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
神代而至る世無きと云はれし 一は道社の神神といはれしを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
め倉生病神といはれしを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し

ましてはまの夫婦神の守りもみ入の神といはれしを合名なり  
平産瓜護しなまひ 此の地はかたてり入の地と書し  
衆人の湯作敷に歴代候伯の守所たるを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
かゝるもみ入の神神といはれしを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し

おたのむ人の神といはれしを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し

○その世の例に年二月九日女子雛をりの社殿ありて  
住古神功皇后てはれし山彦名命の神神像と伝りて出社よを  
納たうたまひに一よりまを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
はよて天下婦女幼児の病苦瓜掃除のまを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
可くと製してまを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
老名命の神神像にしてまを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し  
にまを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し

おまろのまを合名なり 此の地はかたてり入の地と書し



くもきり神の其眉のうへに黒ふとほつらんとや西南  
のくに後出で先加をなく舟を中し其は牛の首ふつて  
上るの若き地流るり陸ふつたてまてさいひふつたるど  
の周廻す二里にんはりあんち松着射してあて他の  
雜樹もはれは掃くも各月流の趣さうし時く潮氣に  
詠うく氣血たるを食ふ外に變速けり赤松崎赤砂嘴  
鼓匡金崎眠處より諸務ありとて未寺絶くもいん親  
盡く乃ち沖をふ仰し其同相準るも其後潮勢はたぬ  
に激すも鼓怒くも以て清をまゝ混濁うて濁まけい  
潰渡たるは多し恰も百千の迅雷を怒うとてうらる揮師  
たるそそくの尾筒ふけさるもまて直ちたるや舟既は彼岸ふ  
らんして是れをむに教てる牆のこけの回たさるもの  
船が原した一斤の大石にて長二十切もあつらん唐さすの

こつらつらあり羊より下りあるも山の家をたると  
流ふせらつらつらありの星を空を二とありし歩をむく  
しりて終終に滑りては終るんとすらうとてその  
踏ぐ手乃攀つたもたう唯とつらうと進退からく谷と  
に誰う後なるものもたうなとらんやあるし其男もよる  
羊のそ幾く栗く秋行はるり或は母とけある明安人のうと  
徐く急ぐ地ゆし辛くして其絶巔を極るふ但見西面は  
五折林寂生穢悪観念崖序岳崖間伽井深地ぬ地去の粒  
字と彫るも是則圓初のけ 南龍公の令ふよつてま極はる  
るる亦に字のたを各とてあまう恐動してすくも風の  
為るも一是となくたふ茶の若草をつらうとてはとるん  
下に空あり徑つらふ二尺がうりあるがよつらうとて觀念空と  
いへる猿猴の涼溪よ水を掬るるこいとなまて下りあると





下まの洞御井の碑あり井ははま清くも形もなほ口だちま  
あり神考ふも其終りてはちち一毎の島の面はふまて  
ゆかり其同詭石端支して亀の甲なすうたご漂母の時  
をうかぬごとあるの箱羽の素免をた然野の大慈も厚そ  
あはれ名づけはくまぐらな梅の暇さふま一神考の其  
周囲三百歩にたは西南のくさ翁として良もあつて細池  
あり是別於陰陽の徒はくまぐら小角神劍をゆるの山に  
神考の名のよる亦たり是とまもあつたはり今粟  
碕まはりまはく彦名命天津神代のむら後本ませし  
地たるとしてかゝる名を負つるに七  
日本書紀に少妻名命に至然野之  
神考遂適於常世耶矣亦曰至淡  
而後舞室者別澤波而至常世耶  
也今言其地也

一帯の水は隔けつと布浦とてふ其間をく候意も  
是富田海路の不慮にそふあつたり南にむ  
分下地潭あり雜本板枋として溪谷をた下河地を  
舟のを採つんととまもあつたりはり大蛇  
なんどの極もちる所もあつて園らなまて茶山のくは中  
たさし歩つると海標堆とて海標常にたまよるとして長  
まふつらなる島の南界ありあり其岐の多崎ふも西の  
淡路の由良ふ標して其ちまのちちちまもあつて  
下ふかして裳とくけくつてまもあつてまの  
百歩づつり道風碕とてふのまもあつてまの

全くとしをてて農圃のさびける兵突くとして水の面  
に被せてその楹のて戦のて紅のて新の術をおすが  
どんぞ冠してさきくるうとありて悉く名はくことか  
しん友の寺と林とりの観るにはさるのちう  
さきむいし道風とりの法師のこの地景をさうあられ  
かりさつたあり候しより其名をよぶとまんまの影葉  
ゆらるるあり其巢より下る下る下るの攀つた  
さしむさうた濃なるてのまあるやう鳴呼きの勢あ  
るかる險阻の苦なをけさう安閑とてたのめること  
の己う道風さる尚に一爵禄ともくつらん光を鞘と  
遊風遊るの徒のさきさした似るるさうより東北する  
こ二百歩にして女濱あり其石まこ寺もさども道風砂ま  
くさぶれやあさうあしてさしたるさしたるさひさし

女の名のうらむる下にお五斗崖の石上松と生じて冬夏に色をか  
つたたるる石のゆる風よさしはさくあやありたるが海の中は岸  
風はさるさうさうとたらさるさうさうの唐土の綿歩はた  
つてやむさう山の方よ道するん其を其のさやたのさして  
まき寺あり一牧る傷ありこと 園君龍種をさるさる  
のふありさうより舟してさふ山さるこ十町あまり蒲浦にい  
たる窪地地あり徑百歩なり竹の徒修くつ入量靈蛇の出  
宛れて笛の音はきくことをにむ美紀一さるさるさる  
身命とせしたるをさしけさるさるの蕭管乃具と携  
るるさるさる護摩場あり修験の徒の付ふまは法と修  
まののさるり碑の地のふさる友寄の觀益やにほく  
つたりその文書のめと次下よげらさるさるさる

友嶋記 紀國文學春川合衡襄平撰









神島や  
慶平  
舟の角  
浴尾全

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島



沖の島  
神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島

神島







大川浦  
報國寺

大川浦

報國寺

大川浦

報國寺

大川浦



えんくわい  
 園光寺師教化之處

い  
 ち  
 り  
 の  
 月  
 夜

ひ  
 かり  
 や

山  
 心

谷  
 八  
 尾

徳  
 泉







江戸書林

須原屋 茂兵衛  
前川 六左衛門

名古屋書林

永樂屋 東四郎

京都書林

小川 多左衛門  
鈴屋 安兵衛

和歌山書林

帶屋 伊兵衛

大阪書林

糟屋 仁兵衛  
勝尾屋 六兵衛  
河内屋 太助

名所記総目録

浪華心齋橋通  
唐物町書林

河内屋太助梓行

平安秋里離島輯

五畿内名所圖會 全部三冊

各神社佛堂の傳記山川幽谷國境  
村里名賢英哲の経路を詳し一名所を  
澄歌をいげ悉く今の風景とそのまゝ後  
寫し同く文章をくくして其監觸に記  
實し全備大成の去以下名所圖會準之

都名所圖會 全部六冊

都拾遺名處名會 全部五冊

大和名所圖會 全部七冊

河内名所圖會 全部六冊

和泉名所圖會 全部四冊

摂津名所圖會 全部三冊

東海道名所圖會

全部六冊

木曾路名處名會

全部七冊

伊勢路名處圖會

全部六冊

行色も別より  
上仕ふ本座の  
手余涉好く通  
仕の法用は作付  
ていふを希ふ

北陸東奥勝地真景

世四輩順拜圖會

全部十冊

山城近江越前加賀越中越後信濃  
上野等八箇國 前篇五冊  
武藏下総常陸陸奥出羽下野相模  
甲斐駿河遠江參河尾張美濃後篇  
附錄 伊勢大和河内攝津備後五冊

山陰道名所圖會

全部七冊 近刻

南海道名所圖會

全部世冊

紀伊國名所圖會 全部六冊

淡路 阿波 讃岐  
伊豫 土佐 續刻

文中題詩諸名家寄合書  
唐土名勝圖會

直隸省部 全部六冊

唐土名勝圖會 全部十五冊  
平任專安先生選  
後素軒構圖畫  
全圖をたきて分圖なるは一冊  
細部をたきて分圖なるは一冊  
此書ハ山城國中社佛圖の修起を志す松蔭の書  
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書ありと詳  
記し香米とあり一助とあるなり  
此書ハ山城國中社佛圖の修起を志す松蔭の書  
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書ありと詳  
記し香米とあり一助とあるなり  
此書ハ山城國中社佛圖の修起を志す松蔭の書  
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書ありと詳  
記し香米とあり一助とあるなり

唐土訓蒙圖會

全部十五冊

山城名勝志

全部二十二冊  
原十二枚箱入

山列名勝志

全部二十二冊

京都雅景一覽

文鳳山人書  
全部二冊

京のあ

全部二冊  
二面

都細見之圖

懐中折本一冊

都名所々々

懐中小本一冊

花洛細見圖

折本十五冊  
集澤社社印圖

出来祓系七卷

全部七冊

京師一覽

全部拾五冊

都茶時記

全部七冊

此書ハ山城國中社佛圖の修起を志す松蔭の書  
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書ありと詳  
記し香米とあり一助とあるなり  
此書ハ山城國中社佛圖の修起を志す松蔭の書  
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書ありと詳  
記し香米とあり一助とあるなり  
此書ハ山城國中社佛圖の修起を志す松蔭の書  
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書ありと詳  
記し香米とあり一助とあるなり  
此書ハ山城國中社佛圖の修起を志す松蔭の書  
歌人英哲寺の経緯と教百編の刊書ありと詳  
記し香米とあり一助とあるなり

日本風土記 全部 八冊

大日本國花萬葉記 全部 廿二冊  
箱入 近刻

難波五綱目 全部 七冊

攝州名跡志 全部 廿冊

泉州志 全部 六冊

長崎記行 全部 一冊  
水子志先先生  
及び記名不日法全一  
を考る

東國名勝志 全部 五冊

東北記行 全部 五冊

西國船政記 全部 五冊  
西國船政法各名所の  
日毎年誌並道の元  
を考る

都れなご老 経本 二冊

本書は十余及の海居城山守名と所赤門所系城の  
片先主の海陸の行記記述所社仏園の経本  
旧法成記一古書とす、水竹本と名を著述果  
堂上支那友位を漢字公用所叙入、各所所  
所用違其外四編の名記法同、法河船橋所叙  
大坂市中、長崎法大、所叙入、町人法師、所叙入  
商人法同、所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、  
姓名も所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、  
は書、所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、  
由來、所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、  
國郡、所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、

任吉名勝圖會 全部 五冊

勝地山水奇觀 前後各四冊  
浪華旭江縮圖

攝津名所圖會 全部 十冊

本海乃又十三次社佛園名所旧法此ら  
し、所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、  
所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、

難波かぐ免 全部 五冊  
経本  
大坂市中、所叙入、所叙入、  
所叙入、所叙入、所叙入、所叙入、

